

同価抽選の方法

(入札の結果、落札予定者となるべき同価の入札が2者以上ある場合)

郵送入札の開札の結果、落札となるべき同価の入札が2者以上の場合。次の方法による抽選(くじ)で落札候補者を決定する。したがって、入札に参加する者は、くじに備えて入札書に「くじ番号」を記入しておく。(くじ番号の記載がない場合は「428」とする。)

1 くじに用いる番号

- ① 入札書の「くじ番号」欄に記入する任意の3桁の数値
- ② 入札書送付時の書留お問い合わせ番号(郵便追跡に使用する11桁の番号)
(○○○-○○-○○○○○-○)

2 くじの手順

- ① 同額入札者のうち、書留お問い合わせ番号(11桁)の下4桁の数値の小さい者から順に「抽選番号」(0, 1, 2, 3...)を付与
- ② 同額入札者が入札書に記載した「くじ番号」を合計し、その合計値を同額入札者数で除し、「余り」を算出する。
- ③ 上記②の計算結果による「余り」の数値と、上記①の抽選番号が一致した入札参加者を最上位とする。
- ④ 最上位の「抽選番号」に1を加えた数値に該当する「抽選番号」の入札参加者を第2順位とする。なお、最上位の「抽選番号」に1を足した数値に該当する「抽選番号」が存在しない場合は、「抽選番号」が「0」の入札者を第2順位とする。
- ⑤ 第3順位以下は、④の規定に準じて決定する

例) 入札参加者3者が同額入札の場合

業者名	「くじ番号」	お問い合わせ番号	「抽選番号」	決定順位
A社	536	○○○-○○-○○463-3	1	1
B社	912	○○○-○○-○○123-6	0	3
C社	038	○○○-○○-○○554-0	2	2

「くじ番号」の和を求め、同額入札者数で除し、余りを算出

$$536 + 912 + 038 = 1486$$

$$1486 \div 3 = 495 \text{ 余り「1」}$$

余りが「1」なので、「抽選番号」1のA者が最上位、C社が2位、B社が第3位となる。

例) 入札参加者4者が同額入札の場合

業者名	「くじ番号」	お問い合わせ番号	「抽選番号」	決定順位
A社	536	○○○-○○-○○463-3	1	4
B社	912	○○○-○○-○○123-6	0	3
C社	038	○○○-○○-○ 5554-0*	3	2
D社	336	○○○-○○-○ 3554-0*	2	1

(※C者とD者の「お問い合わせ番号」の下4桁が同じなので、下5桁目以降高い数値を比較し、小さい番号の者に先に「抽選番号」を付与する。)

「くじ番号」の和を求め、同額入札者数で除し、余りを算出

$$536 + 912 + 038 + 336 = 1822$$

$$1822 \div 4 = 455 \text{ 余り「2」}$$

余りが「2」なので、「抽選番号」2のD社が最上位、C社が2位、B社が第3位、A社が第4位となる。